

形名	LEDG87904YL-LS	LEDG87904YN-LS	LEDG87904YL(K)-LS	LEDG87904YN(K)-LS
----	----------------	----------------	-------------------	-------------------

このたびは東芝LED照明器具をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございました。

● この商品を安全に正しく使用していただくために、お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みになり十分に理解してください。

■安全上のご注意 **必ずお守りください**

お使いになる人や他の人への危害、財産の損害を防ぐために、お守りいただくことを説明しています。

「表示の説明」は、誤った取り扱いをしたときに生じる危害・損害の程度の区分を説明し、「図記号の説明」は、図記号の意味を示しています。



ON/OFFセンサー付照明器具

1. 人感センサーが人の動きをキャッチして自動的に点灯する機能を持っています。
2. 照度センサーを内蔵していますので、周囲が明るいときは点灯しないように設定できます。
3. 壁スイッチの操作で連続点灯させることができます。

事前にご確認ください (詳細は、2ページの「■器具を取り付けるまえに」をご確認ください)


- 必ず壁スイッチのあるところに取り付けてください。
- 1つの壁スイッチで指定器具5台までご使用いただけます。
- 調光器のついている回路では使用できません。
- 表示灯付スイッチと組み合わせる場合は、弊社製品をご使用ください。(弊社商品名: オフピカスイッチ)
他社製表示灯スイッチとの組み合わせはできません。誤動作・故障の原因となります。

図記号の説明

 中の絵と近くので、してはいけないこと(禁止)を示します。	 中の絵と近くので、しなければならないこと(指示)を示します。
--	--



■工事店様へ 施工上のご注意

- ・照明器具の電気工事は、主任電気工事士の管理が義務付けられています。
- ・工事終了後、この取扱説明書を必ずお客様へお渡しください。

<h2> 警告</h2> <p>「死亡または重傷を負う可能性がある内容」を示します。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 次の場所での取り付け、使用はしない(屋内専用) (落下によるけが・感電・火災などの原因) ・薄い、または強度が不十分、凸凹の平滑でない取付面 ・暖房器具、ガス器具などの真上付近の温度の高い場所 (使用可能温度は、5°C~35°Cの範囲) ・塩害地や屋外・浴室などの湿気の多い場所 ・器具に振動や衝撃の加わる場所、粉塵の発生・滞留する場所 (工場やトンネル内にある駅ホーム等) ・風や直射日光の常にあたる場所 ・天井から滴り落ちる水滴が集中する場所 (変形・変色の原因) ・酸・アルカリ・硫黄など腐食性雰囲気のある場所や溶液の 発散する場所、オイルミストが発生する場所、温泉地など (硫黄成分によるサビや、変色・変質の原因) ● 器具を分解・改造・修理・部品変更しない (火災・感電・落下の原因) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 器具は確実に取り付ける (落下・感電・火災の原因) ● 作業をするときは、電源(ブレーカー)を切る (感電の原因) ● 器具の取り付け・取りはずし方法は、取扱説明書に従う (落下・感電・火災の原因) ● 交流100Vで使用する (過熱による火災の原因) ● 耐熱保護チューブを必ず使用する (過熱による火災の原因) ● 絶縁体にナイフなどで傷を付けたり、傷が付いた状態で 通電しない (絶縁破壊による電線の焼損の原因) ● 器具を改造したり部品を変更しない (落下・感電・故障・火災の原因) ● 油、煙、湿気に常時触れる場所に取り付けけない (火災・故障の原因)

■お客様へ 使用上のご注意

- ・この器具の取り付け、取りはずしには電気工事士の資格が必要です。販売店、工事店に依頼してください。
- ・お読みになった後は、お使いになるかたがいつでも見られるところに必ず保管してください。

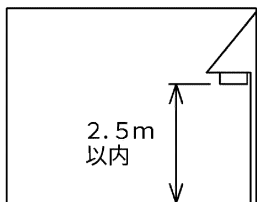
<h2> 警告</h2> <p>「死亡または重傷を負う可能性がある内容」を示します。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 器具に直接水をかけて洗わない (器具の破損・落下・感電などの原因) ● 器具に直接水をかけたり、器具のすき間などに 針金などを差し込まない (器具の破損による、けが・感電・火災の原因) ● 紙や布などを器具にかぶせたり、器具の近くに 置いたりしない(火災などの原因) ● 器具を分解・改造・修理・部品変更しない (火災・感電・落下の原因) 	<ul style="list-style-type: none"> ● お手入れのときは、必ず電源を切り取扱説明書に 従い取りはずし、取り付けする (落下・感電・火災の原因) ● 1年に1回の「安全チェックシート」による自主点検、 および3年に1回の工事店などの専門家による点検 を実施する (点検せずに長期間使い続けると、まれに発煙・発火・感電の原因) ◎「安全チェックシート」は、当社のホームページに掲載しています。
<h2> 注意</h2> <p>「軽傷を負うことや、家屋・家財などの損害が発生する可能性がある内容」を示します。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 点灯中および消灯直後は器具に触れない (やけどの原因) 	<ul style="list-style-type: none"> ● カバー、セード等の樹脂部品には洗剤や薬品を 使用しない (部品劣化・落下の原因)

■器具を取り付けるまえに

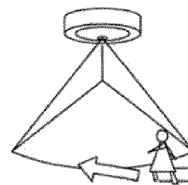
- 必ず壁スイッチのあるところに取り付けてください。
- 1つの壁スイッチで指定器具5台まで連動し使用いただけます。(連動させる場合、5ページの「配線図」を参照ください。)
- 1つの壁スイッチで連動させずに2台以上の器具を取り付けると、同時に連続点灯に切り替わらない場合があります。
- 調光器のついている回路では使用できません。
- 器具の性能を維持するため、設置場所は十分検討のうえ決定してください。
- 蛍光灯やLEDの光が入らない場所に取り付けてください。(センサー誤動作の原因になります。)
- 消火栓の表示灯などの赤色の光がはまらない場所に取り付けてください。(センサー誤動作の原因になります。)
- 表示灯付スイッチと組み合わせる場合は、弊社製品をご使用ください。(弊社商品名: オフピカスイッチ)
他社製表示灯スイッチとの組み合わせはできません。誤動作・故障の原因となります。

人感センサーの検知エリアを考慮して器具を設置してください。

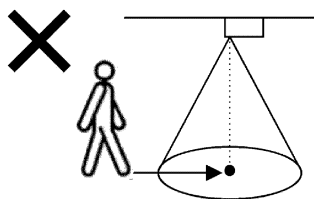
- 高さ2.5m以内に設置してください。



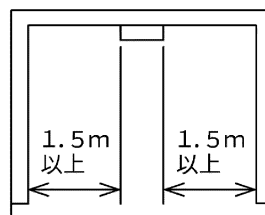
- センサーの特性上、図の様に検知エリアを人が横切る位置に設置しますと、センサーの人体検知の信頼性がより向上します。



- センサーに向かって人が近づくような位置に器具を設置すると、器具のごく近くまで人が近づかないと検知しない場合があります。



- 器具本体から出た光の反射によって起こる点滅を防ぐため、壁等から1.5m以上離して取り付けてください。



- 雨や雪などをセンサーが検知して器具が点灯する場合がありますが、故障ではありません。

■次のような場所には取り付けないでください。(検知しなかったり、誤動作、故障の原因になります。)

<p>検知エリア内に木や池の水面などがあり、風でこれらのものが動く場所へはお避けください。</p>	<p>車のヘッドライトが直接当たる場所への取り付けはお避けください。</p>	<p>昼間でも暗い場所や、夜間でも明るい場所(取付環境により照度レベルが変わり、誤動作等が考えられます。)</p>
<p>前面に障害物のある場所(透明なガラスでも遮断されます)</p>	<p>風などでよくゆれるのれんや植物などがある場所</p>	<p>エアコンなどの排気口の近く排気口に対向する場所</p>
<p>大理石など反射の強い床面のある場所</p>	<p>検知エリア内に交通量の多い道路がある場所</p>	<p>取付高さが2.5m以上になる場所</p>

■各部のなまえと付属品

屋外用

天井面取付専用

傾斜天井面取付不可

門柱・浴室取付不可

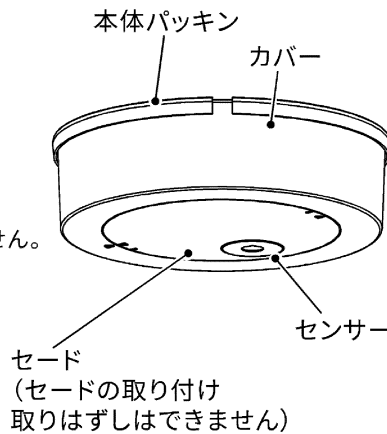
壁面・床面取付不可

＜ボックス取付可※＞

※ボックス取付用ねじは付属しておりません。
※JIS C 8340適合の66.7mm・83.5mm
(1個用)ピッチに取り付けられます。

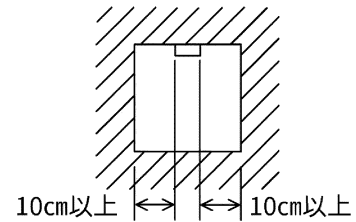
●付属品

- ・木ねじ(38mm)・・・2本
- ・耐熱保護チューブ(200mm)・・・4本
- ・エアアカットシール・・・1枚



お願い

器具周囲面より10cm以上離して取り付けてください。下面はなにもないようしてください。センサーの検知エリアに影響します。



■器具の取り付けについての注意事項

お願い

- 器具を取り付けるときは、本体パッキンを取付面と器具に必ず密着させてください。
- 湿度の高い場所で長時間使用する場合は、点灯・消灯による呼吸作用を回避するため、(図1)のように工事してください。
- 取付面が本体パッキンよりも大きい場所に取り付けてください。(図2・図3)
- 本体パッキン外全周部にコーキングを必ず行ってください。(図1・図2・図3)
- 裏面から雨がかからないように取り付けてください。
- 取付面に凸凹がある場合は、パテなどで凸凹をなくすか、防水用シール剤などで器具(木台)と取付面のすき間を埋めてください。(図2・図3)
- アウトレットボックスなどに取り付ける場合は、取付用ねじに金属製のワッシャーなどをはめてから器具を取り付けてください。(ボックス取付用ねじは付属していません)

図1

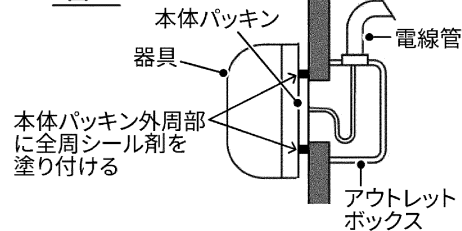


図2

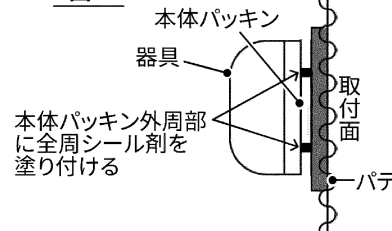
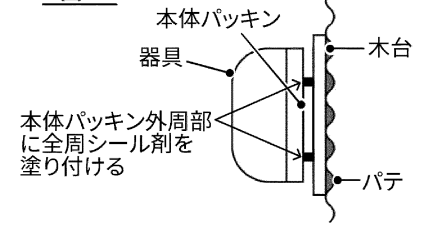


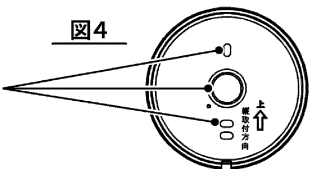
図3



※本体パッキン外周部全周シール剤を塗り付けるか、または本体パッキンの取付面全体にシール剤を塗り付けてください。
※器具内面からも、電源線引出部・取付ねじ部にも水の侵入が無いようシール剤を塗り付けてください。(図4)

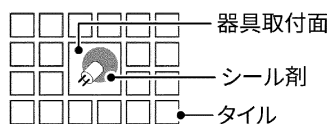
図4

器具内面からも電源線引出部・取付ねじ部にシール剤を塗りつける

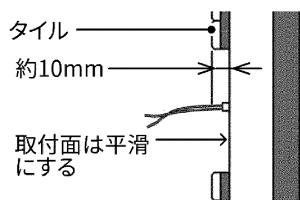


■タイルモジュールの場合

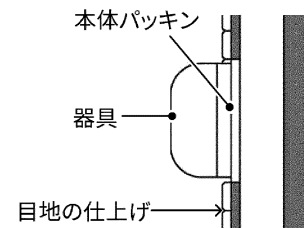
- ①取付面が本体パッキンよりも大きい所に器具を取り付けてください。
 - ・電源線は中央から正確に出してください。
 - ・電源線の引出部は、シール剤で防水処理をしてください。



- ②取付面を平滑にしてください。
注)取付面に凸凹がある場合、器具取付部の本体パッキンの防水性が損なわれ、感電のおそれがあります。



- ③器具を取り付けた後、目地部の仕上げをします。
 - ・目地仕上げには、目地用モルタル、または市販の防水用シール剤を使用してください。確実に目地仕上げをしないと、漏水の原因になります。



※防水用シール剤は、カビの発生防止効果と耐久性のあるものを使用してください。

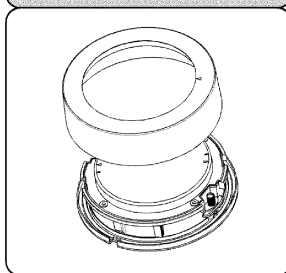
■ 器具の取り付けかた ※取り付けの際は必ず電源(ブレーカー)を切ってください。

準備 >> カバー・サポートを取りはずす

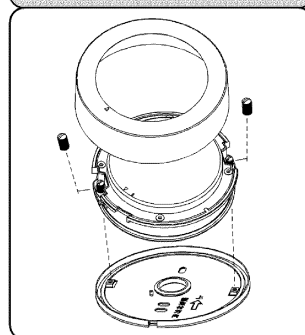
器具取り付けの前に

- ①カバーを取りはずしてください。
※内部の黒スポンジは捨てないでください。
- ②本体の化粧ナット(2本)をマイナスドライバーで左に回してゆるめてから本体を取りはずしてください。

カバーの取りはずしかた



サポートの取りはずしかた



1 サポートを取りつける

- ①電源線用穴より電源線を引き出してください。
送り配線をする場合も電源線用穴から引き出してください。
- ②図-5の取付寸法図を参照しサポートを付属の木ねじ(2本)で確実に取り付けてください。
※壁面に取り付けする場合、サポートは矢印の刻印の向きに取り付けてください。
また、パッキン切り欠き部分が下側になるようにして取り付けてください。

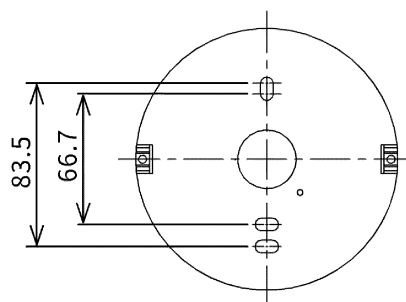
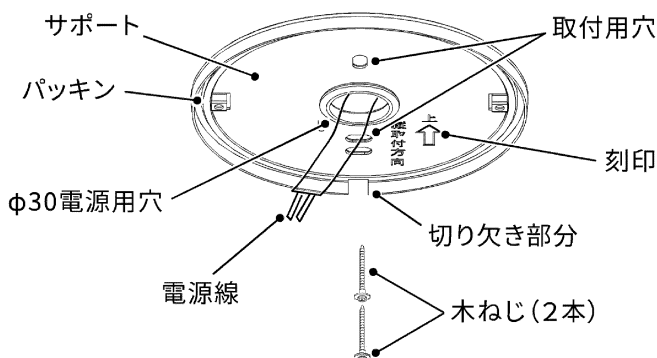


図5 取付寸法図

⚠ 注意

- 取り付ける際に、電源線をサポートと取付面との間ではさまないように注意してください。
- 木ねじを取り付ける際に、木ねじを締め過ぎないように注意してください。
締めすぎるとサポートの反り上がりの原因となります。

2 端子台に電源線を接続する

- ①付属の耐熱保護チューブの長さに合わせて電源線の外被覆をむいてください。(図-6)
- ②電源線の被覆を端子台のストリップゲージに合わせてむいてください。(図-6・図-7)
- ③電源線に付属の耐熱保護チューブを被せてください。(図-6)
- ④電源線を端子台に確実に奥まで差し込んでください。
※送り配線容量は6Aまで。接続台数は当器具含め5台まで。

⚠ 警告

- 電源線皮むき寸法は8~9mmで、垂直にカットしてください。
- 結線は電源線を奥まで確実に差し込んでください。(感電・火災の原因)

適合電線 ※推奨φ1.6
φ1.6、φ2.0単線

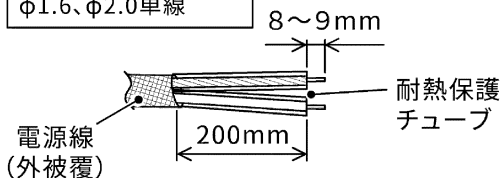


図6 電源線皮むき寸法

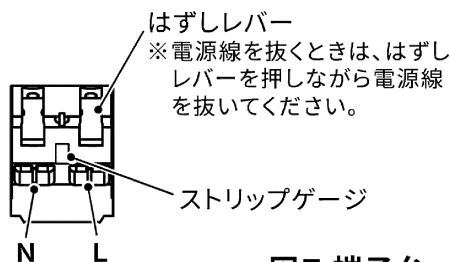
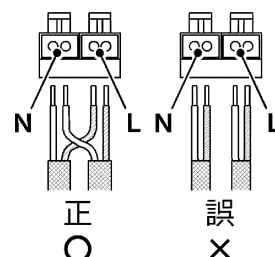


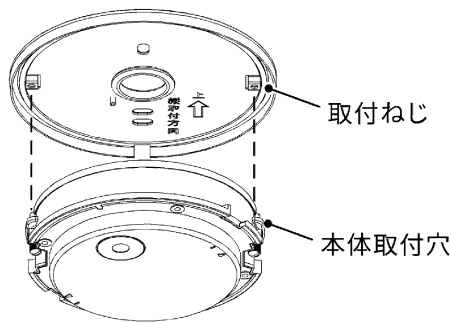
図7 端子台



N側に白コードを差し込んでください

■ 器具の取り付けかた (つづき)

3 本体を取り付ける



- ① サポートの取付ねじと本体の取付穴位置を合わせ、マイナスドライバーを使用して化粧ナットでサポートに本体を取り付けてください。(図-7)
※サポートに本体を取り付ける前に、電源線を事前にサポート中央の電源線用穴に向けて曲げ癖をつけておいてください。

図7 本体取付方法

4 本体にカバーを取り付ける

- ① セード側の『I』マーク位置にカバーの『▲』マークを合わせてください。(図-8)
- ② セード側の『▲』マークとカバー側の『▲』位置が合わさるように完全に止まるまでカバーを右に回して固定してください。(図-8)

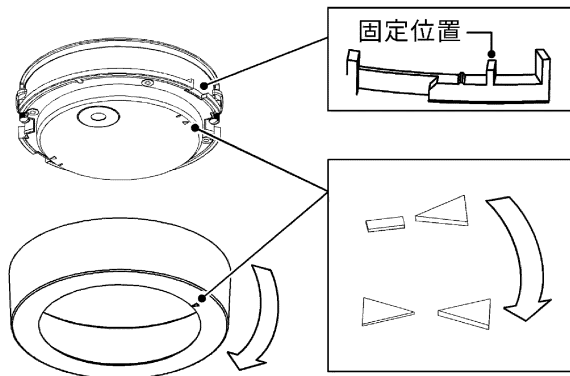


図8 カバー固定方法

⚠ 注意

- カバーの突起が確実に固定位置に止まるまで回してください。完全に止まる位置でない場合、カバー落下の原因となります。

5 センサーを連動させる場合

- ※6ページの「配線図」を参照してください。
 - ※常時通電の電源送りはできません。
 - ※センサー付器具を複数台連動する場合、ツマミの設定位置は全て合わせてください。
- ① (図-5)の取付寸法図を参照し、取付面より接続線を引き出してください。
 - ② 接続線の外被覆を耐熱保護チューブの長さに合わせてむき、端子部をセンサー連動用コネクタのストリップゲージに合わせてむいてください。
- ※連動用コネクタの皮むき寸法にご注意ください。(9~11mm) (図-9)
- ③ 接続線に付属の耐熱保護チューブを被せてください。
 - ④ センサー連動用コネクタに接続線を確実に奥まで差し込んでください。

適合電線 ※推奨φ1.6
φ1.6、φ2.0単線

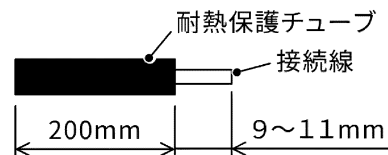
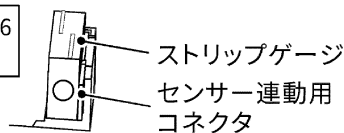
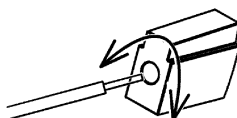


図9 センサー連動用端子台と接続線皮むき寸法

- ※接続線をはずす場合は、端子台をねじりながら接続線を引き抜いてください。(図10)再結線の際は、傷ついた電源線を切り捨てて新しくむきなおしてから行ってください。曲がったり傷ついた電源線は、接触不良により火災の原因となります。



(図10)

⚠ 警告

- 接続線皮むき寸法は9~11mmで、垂直にカットしてください。
- 結線は接続線を奥まで確実に差し込んでください。(感電・火災の原因)

■連動指定器具形名と指定台数について

センサー付形名(A)	センサーなし形名(B)	指定台数
LEDG87904YL-LS	LEDG87904L-LS	A1台に対してB4台まで
LEDG87904YN-LS	LEDG87904N-LS	A2台に対してB3台まで
LEDG87904YL(K)-LS	LEDG87904L(K)-LS	A3台に対してB2台まで
LEDG87904YN(K)-LS	LEDG87904L(N)-LS	A4台に対してB1台まで
		A5台に対してB0台

⚠ 注意

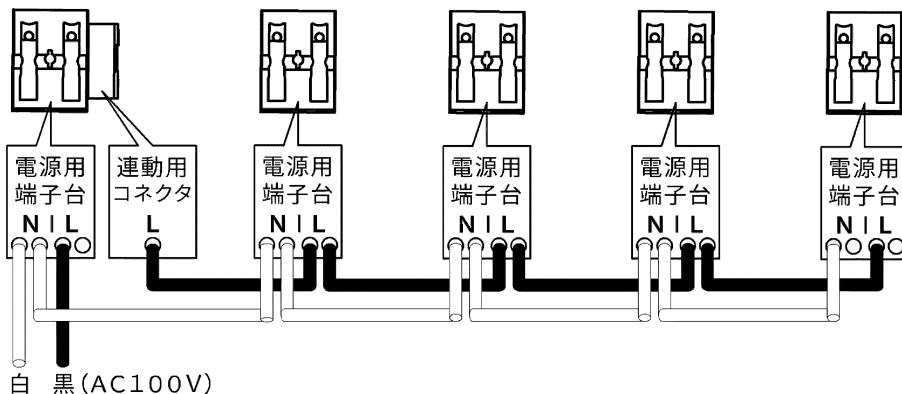
指定台数以上接続して使用しないでください。
また、記載形名以外の器具を接続して使用しないでください。センサー故障の原因となります。

■配線図 <連動可能台数>指定器具5台まで(※当器具含む)

⚠ 注意 センサー付器具が2つ以上グループに入る場合は極性を間違えると白と黒の短絡が発生しますのでご注意ください。

施工例①：センサー付器具1台にセンサー無を接続する場合（センサー無タイプ 4台まで接続可）

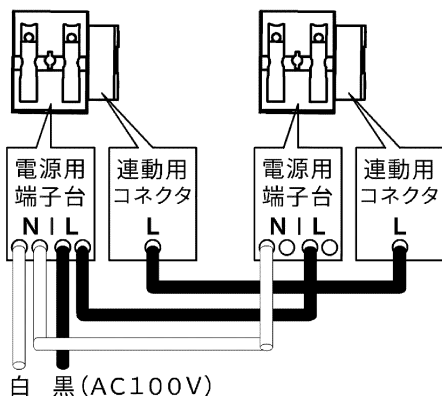
①センサー付 ②センサー無 ③センサー無 ④センサー無 ⑤センサー無



①が検知すると、②～⑤も連動して点灯します。

施工例②：センサー付器具だけを接続する場合（センサー付タイプ 当器具含め5台まで接続可）

①センサー付 ②センサー付



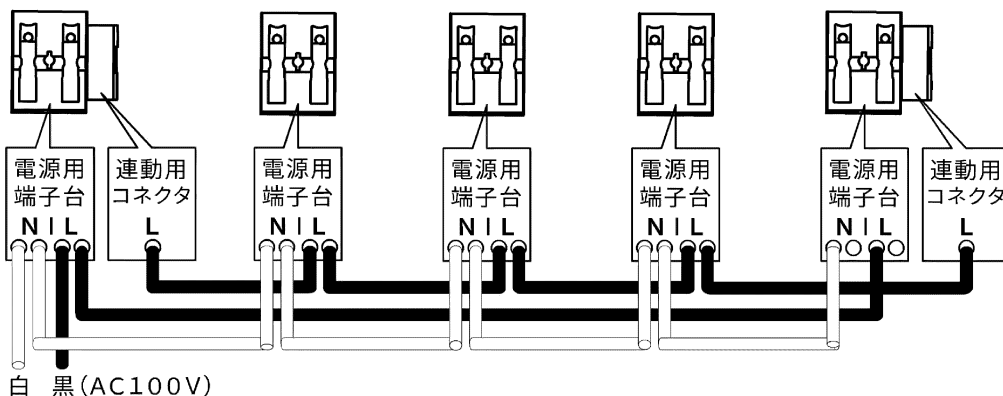
①、②どちらから検知した場合でも連動して点灯します。

※点灯時間は最後に検知したセンサー付器具の動作設定のモードに従います。

※センサー付器具を複数台連動する場合、ツマミの設定位置は全て合わせてください。

施工例③：センサー付器具2台にセンサー無器具3台接続する場合

①センサー付 ②センサー無 ③センサー無 ④センサー無 ⑤センサー付



①が検知すると、②～⑤も連動して点灯します。

⑤が検知すると、①～④が連動して点灯します。

※点灯時間は最後に検知したセンサー付器具の動作設定のモードに従います。

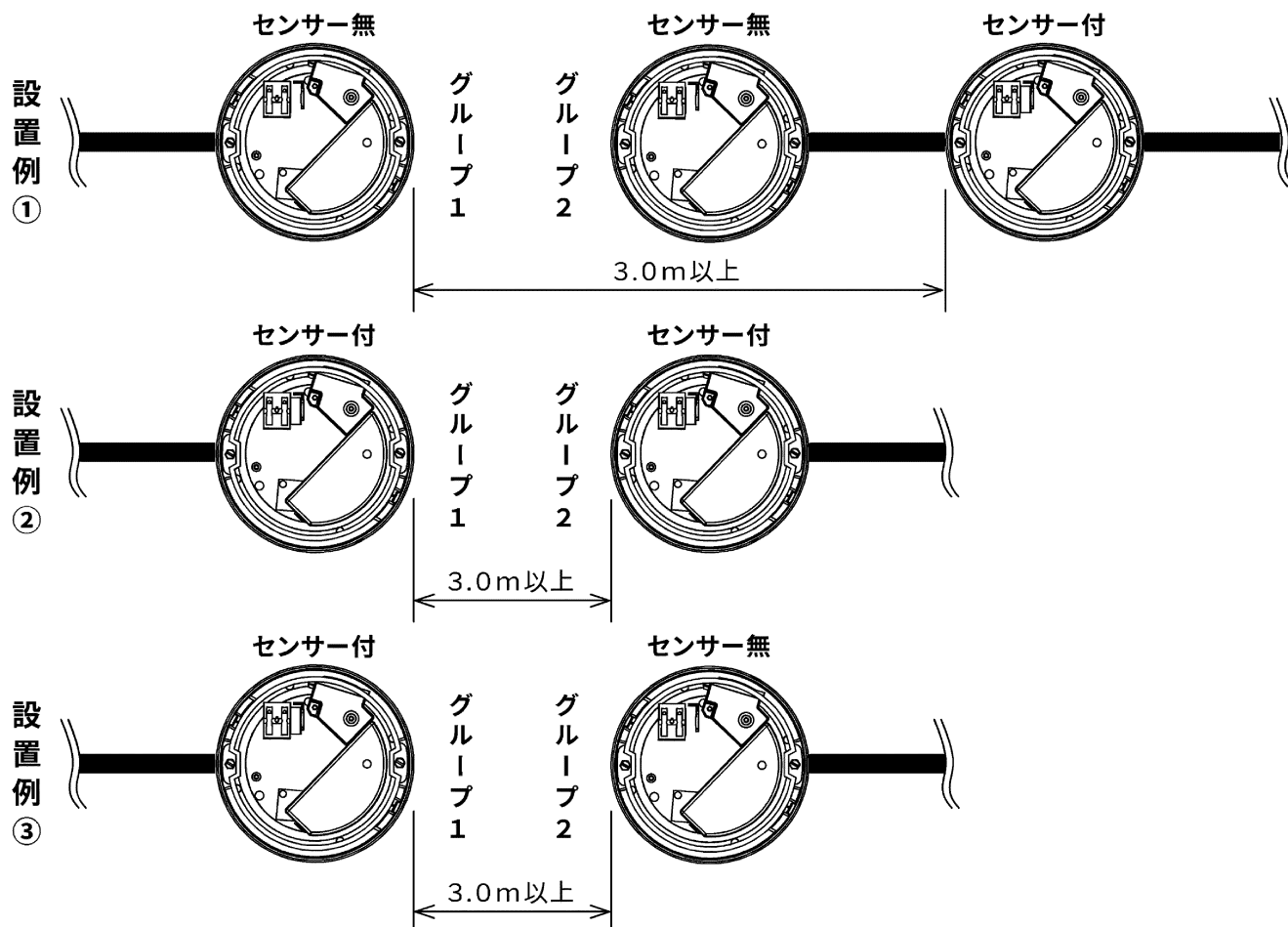
※センサー付器具を複数台連動する場合、ツマミの設定位置は全て合わせてください。

■器具の設置距離について

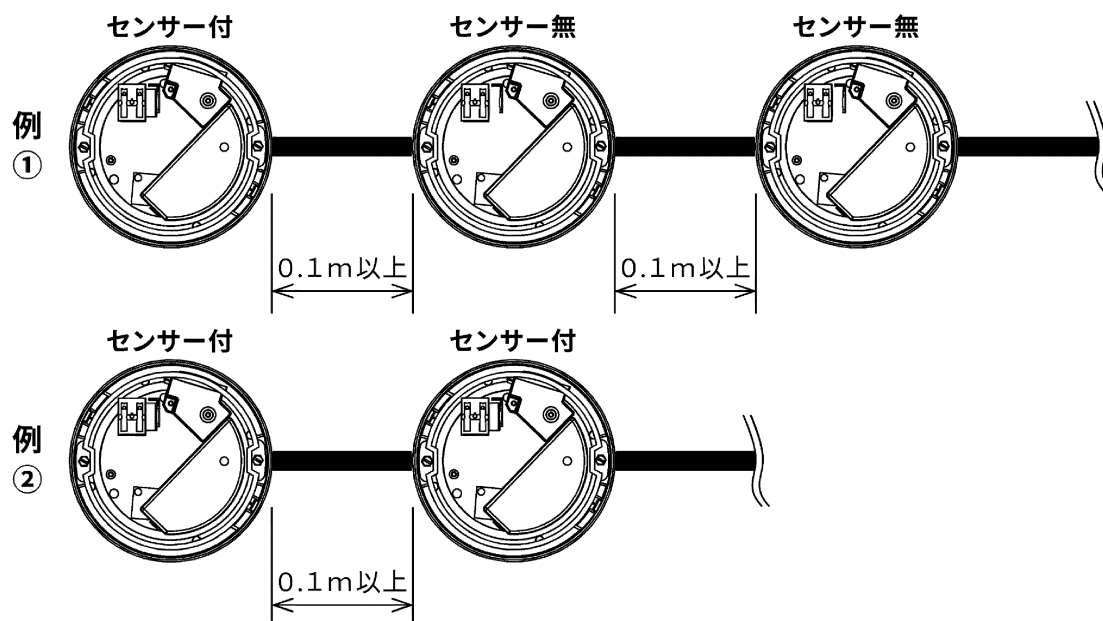
⚠ 注意

- グループが異なる(連動していない)センサー付器具からの設置距離は、必ず3.0m以上離して取り付けてください。
- ※グループが異なる(連動していない)センサー付器具からの設置距離が3.0m未満の場合、誤動作の原因となります。
- 同一(連動)グループ内での器具設置距離は、0.1m以上離して取り付けてください。

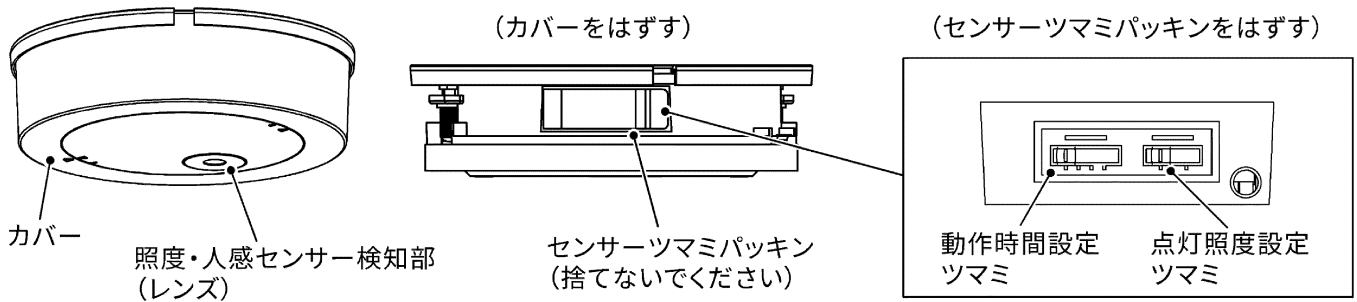
グループが異なる(連動していない)器具の設置距離



同一(連動)グループ内での器具の設置距離



■センサーの名称



エアアカットシール (付属品)

品名：エアアカットシール
形名：MASK-LEDG87002Y
※紛失などの場合は東芝コンシューママーケティング(株)扱いのサービス部品でお求めいただけます。

●エアアカットシールの貼り付けかた

エアアカットシール
台紙 (白色)
フィルム (裏接着面)

※エアアカットシールは取扱説明書に止めています。

①台紙 (白色) をはがしてください。
②エアアカットシールをセンサーの検知部に合わせて貼り付けてください。
※一度使用したセンサーシールは、粘着性が失われますので繰り返しの使用はおやめください。

■検知エリアを決定する (設置後)

●検知エリアを決定するには「人感センサーモード」(10秒)で行うと便利です。

「人感センサーモード」は周囲が明るいときでも、人を検知するたびに約10秒間点灯します。器具の周囲を歩き、検知エリアの確認、調整を行ってください。

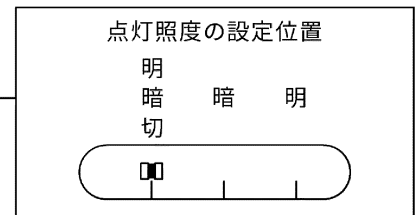
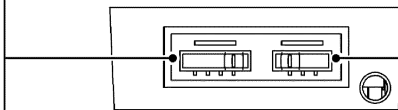
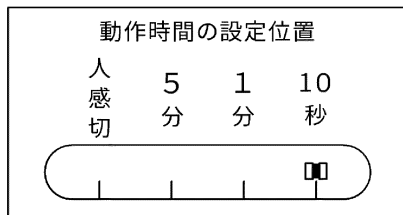
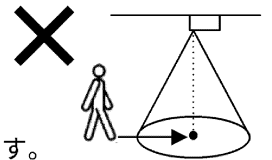
1. 点灯照度設定ツマミを「明暗切」に合わせます。

2. 壁スイッチをONします。

壁スイッチをONすると、約1分間点灯します。その後約4秒消灯してからセンサーが動作します。

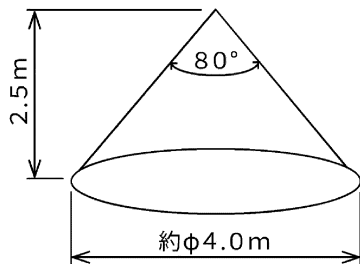
3. 器具の周囲を歩き、検知エリアを確認してください。

※センサーに向かって人が近づくような位置に設置すると、器具のごく近くまで人が近づかないと検知しません。

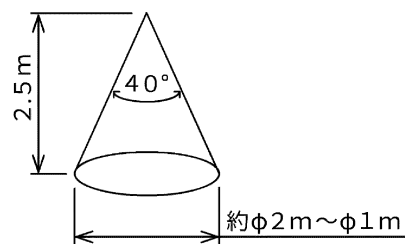


検知エリア

・通常時



・エアアカットシール使用時



検知エリアは参考値です。

※照明器具の灯具の向きによっては検知エリアの距離を満足しない場合があります。

※検知エリアは、気象条件などにより差が生じる場合があります。

特に寒冷地などで、手袋・コートなどの表面温度が低い時は動作しない場合があります。

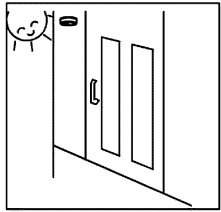
■センサー機能について

●各設定ツマミのスイッチを組み合わせることにより、設定を変更できます。

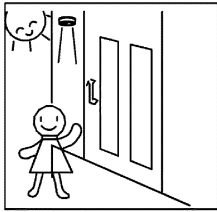
●人感センサーモード まわりの明るさに関係なく人を検知した時に点灯させたい

動作例

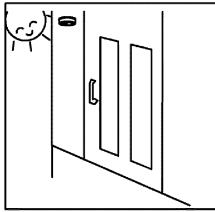
人が居ない時は消灯



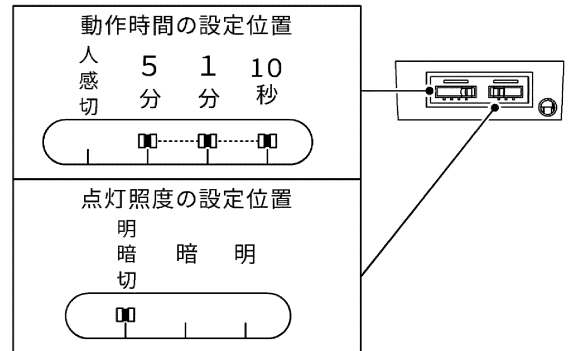
人が近づくとまわりの明るさに関わらずパッと点灯



人が居なくなると設定した時間で消灯 (10秒・1分・5分)



設定方法



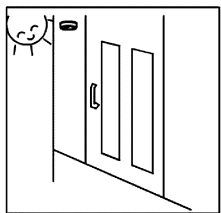
※人感センサの検知間隔は、設定した検知時間が終了し再度人を検知する場合、約4秒間経ってから再度人を検知します。

※軒下使用の場合、ON/OFFモードもしくは照度センサーモードを推奨します。

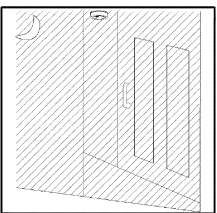
●ON/OFFモード 暗くなって人を検知した時だけ点灯させたい

動作例

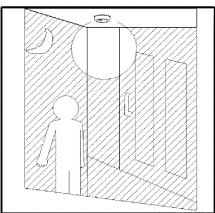
明るい時は消灯



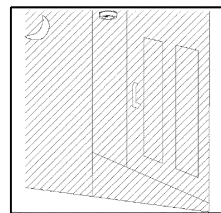
暗くなくても消灯



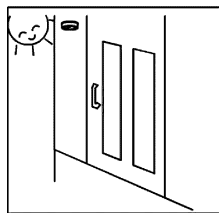
暗くなって人が近づくとパッと点灯



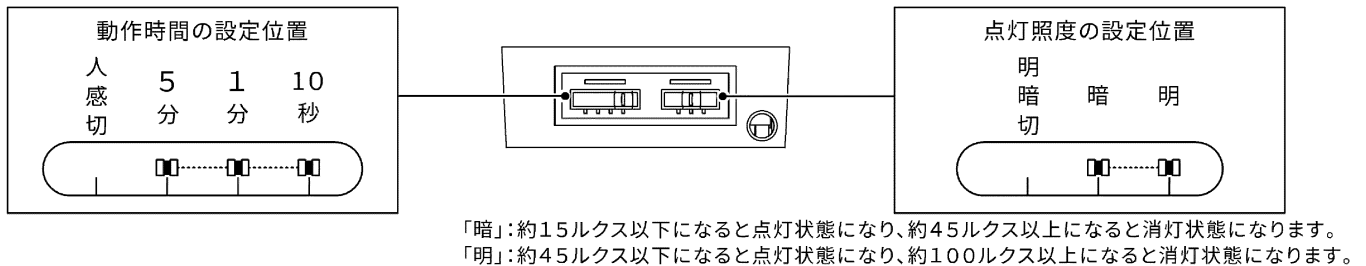
設定した時間で消灯 (10秒・1分・5分)



明るくなると消灯



設定方法



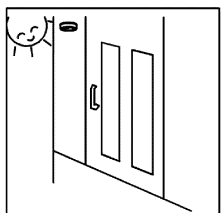
※人感センサの検知間隔は、設定した検知時間が終了し再度人を検知する場合、約4秒間経ってから再度人を検知します。

※点灯照度は目安です。壁面・床面の色艶や離隔距離、周囲からの漏れ光などの影響により変化することがあります。

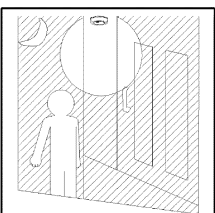
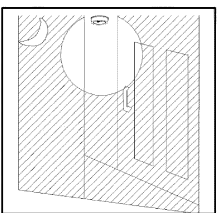
●照度センサーモード 暗くなったらまわりの人に関わらず点灯し、明るい時には消灯したい

動作例

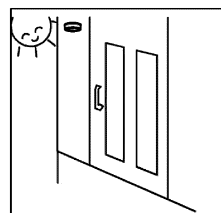
明るい時は消灯



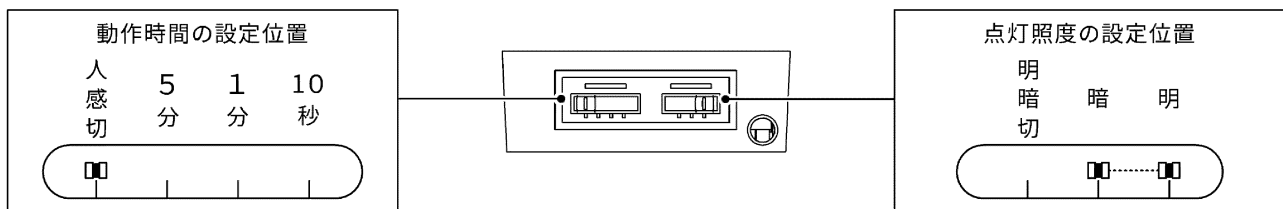
設定した照度 (暗・明) 以下まで暗くなるとまわりの人に関わらず点灯



明るくなると消灯



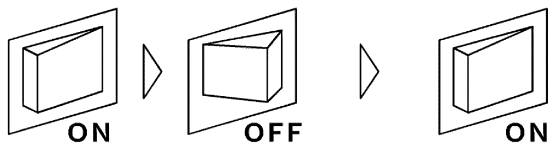
設定方法



●連続点灯モード まわりの人や明るさに関わらず点灯させ続けたい場合

連続点灯設定方法

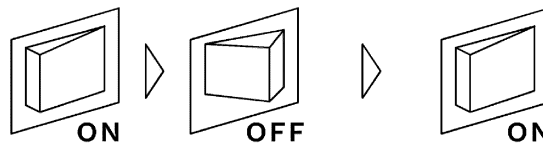
1. 壁スイッチを一度OFFさせる 2. 約1秒以内にONにする



・人の有無、昼間、夜間に関係なく、約8時間点灯します。

連続点灯設定解除方法

1. 壁スイッチを一度OFFさせる 2. 約5秒以上あけてからONにする



※壁スイッチのOFF時間が5秒より短い場合は、連続点灯設定が継続されます。必ず5秒以上OFFにしてからONにしてください。

※センサー切 [点灯照度設定] と [動作時間設定] が切の場合、センサーが動作しません。
この場合、壁スイッチでON/OFFが可能となります。

■故障かな?と思ったら

■センサーの動作が故障かな?と思ったら下記を参照し点検を行ってください。

現象	考えられる原因	処置方法
周囲が明るくても人に反応し点灯する。	周囲が明るくなっていく時に、一瞬暗くなった。	人感センサーは周囲が明るくなり日中と認識するのに約1時間かかります。この時1時間の間は動作が不安定になり人を検知して点灯する場合がありますが、周囲が十分に明るくなれば人を検知しなくなり、正常に動作します。
	センサーに蛍光灯やLEDの光が入っている。	照度センサーは蛍光灯やLEDなど点滅している光を検知しにくい場合があります。人の目では明るい場合でも照度センサーが暗いと判断してしまう場合があります。蛍光灯やLEDの光が入らない位置に取り付けてください。
周囲が暗くなっても点灯しない。	電源接続が正しく行われていない。	電源を正しく接続してください。(電気工事店等に依頼してください。)
	壁スイッチ(電源)がOFFになっている。	壁スイッチ(電源)をONにしてください。
	壁スイッチが故障している。	壁スイッチを交換してください。(電気工事店等に依頼してください。)
	センサーに周りの光が入っている。	光が入らないようにしてください。
	センサーに赤色の光が入っている。	照度センサーは赤色の光を検知しやすいため、人の目では暗いと判断されても赤色光を検知して周囲が明るいと判断し、動作(点灯)しない場合があります。赤色光が入らない位置に設置するか、点灯照度設定を「明」にしてください。
人が近づいても点灯しない。	タイマー回路等に接続されている。	タイマーが優先になっていると点灯しない場合があります。
	電源接続が正しく行われていない。	電源を正しく接続してください。(電気工事店等に依頼してください。)
	壁スイッチ(電源)がOFFになっている。	壁スイッチ(電源)をONにしてください。
	壁スイッチが故障している。	壁スイッチを交換してください。(電気工事店等に依頼してください。)
	厚手の服を着ている。	熱量を検知するため、コート等を着込んでいると体温が検知されず反応しない場合があります。(P.11 ※1 参照)
	人感センサーの検知部の表面に汚れが付着している。	水で固く絞った柔らかな布で軽く人感センサー検知部の汚れを落としてください。
	検知エリアに人が入っていない。	検知エリアの確認・調整を行ってください。(P.8参照)
	照度検知に対し、周りが明るすぎる。	設定されたモードより暗くなると人感センサーが動作します。(P.9参照)
点灯したままで消灯しない。	タイマー回路等に接続されている。	タイマーが優先になっていると点灯しない場合があります。
	連続点灯になっている。	センサーモードに戻してください。(P.9参照)
	電源の瞬時停電でセンサーが連続点灯になっている。	電源の瞬時停電があると、連続点灯になる場合があります。(P.10参照)
	検知エリアに熱源がある。	検知エリアから熱源を取り除いてください。(P.11 ※1 参照)
	検知エリア内に、常に人感センサーに反応するものがある。	検知エリアから反応するものを取り除いてください。(P.11 ※2 参照)
	センサーに水滴がついている。	センサー検知部について水滴を検知して点灯する場合があります。(P.11 ※1 参照)
	検知エリアに風で植木や洗濯物などが動くと検知する場合がある。	検知エリアの確認・調整を行ってください。(P.8参照)
センサーが故障している。	お買い求めの販売店・工事店等に修理をご依頼ください。	
連続点灯モードに切り替わらない	初回通電時に壁スイッチをON-OFFさせ、約1秒以内にONしたが連続点灯にならない。	初回通電時のみ、ソフトの初期化処理がありますので、約5秒以上待ってから壁スイッチを操作してください。

■故障かな?と思ったら (つづき)

現象	考えられる原因	処置方法
人が近づかなくても点灯する。	検知エリアにペットなどの動物がいる。	ペットなどの動物にも人感センサーは反応します。(P.11 ※1 参照)
	センサーに水滴がついている。 激しい雨が降っている。	センサー検知部についた水滴を検知して点灯する場合があります。(P.11 ※1 参照)
	検知エリアに風で植木や洗濯物などが動くと検知する場合があります。	検知エリアの確認・調整を行ってください。(P.8参照)
	検知エリア内を車などが通る。	検知エリアの確認・調整を行ってください。(P.8参照)
	検知エリアに熱源がある。	検知エリアから熱源を取り除いてください。(P.11 ※1 参照)
	電源電圧の一時的で急激な変動があった。	(P.11 ※1 参照)
	センサーが故障している。	お買い求めの販売店・工事店等に修理をご依頼ください。
	昼間でも周囲が暗い。	昼間でも周囲が暗い場合は、夜と認識して点灯することがあります。
検知エリアに人がいるのに消灯する。	検知エリア内で動かなくなった。	検知エリア内に人がいても、動きがない場合には人感センサーが検知しないため器具が消灯します。 動く人感センサーが検知し器具が点灯します。
	センサーの電源を都度、入り切りしている。	電源ON直後はセンサー内のマイコンが調整を行いますので、1度器具が点灯し消灯して待機状態となります。(P.11 ※3 参照)
明るさに関係なく点灯し続ける。	誤った壁スイッチ操作や瞬間的な停電などで連続点灯モードになっている。	壁スイッチを5秒以上OFFにしてから再びONにしてください。 設定されているセンサーのモードに戻ります。(P.9参照)
点灯・消灯を繰り返し返す。	検知面に他器具の光が当たっている。また、壁や反射物に反射して自光に反応している。	他器具と距離を離して設置してください。反射物に反応しないように設置を考慮して取り付けてください。(P.11 ※4 参照)

- ※1 人感センサーは赤外線検知方式となっています。これは検知エリア内の熱変化(温度変化)を検知する方式です。このため、検知エリア内でのペット等の動物の動きにも反応します。
また、のれんや植物、洗濯物などが風で動いた場合、水滴が人感センサー部に付着した場合、水滴が人感センサー前面を動いても反応することがあります。
また、冬季に厚手の服を着ている場合、体温が服の内部に閉じ込められ、服の表面温度が外気と差が無いために人感センサーが反応しないことがあります。
同様に、夏季に周囲温度が高い場合に、体温との温度差が無いためにセンサーが反応しないことがあります。
- ※2 このセンサーは照度センサーと人感センサーが複合しています。点灯は人感センサーが優先され、消灯は照度センサーが優先されます。通常は周囲が暗くなり、照度センサーが検知状態となってから人感センサーが動作します。人感センサーが検知して全光点灯状態のときは照度センサーは動作しません。
この機能のため、周囲が暗い状態で人感センサーが動作し、検知し続けることにより点灯を維持すると周囲が明るくなくても器具は点灯したままとなります。
- ※3 電源投入直後は、約1分間器具点灯状態となりセンサー内のマイコン調整を行います。マイコン調整が終了するとセンサーは約4秒間消灯してからセンサー待機状態となります。
- ※4 反射が強い床面や壁面に取り付けると、器具の光が反射して照度センサーが明るくなったと検知して消灯し、消灯後暗くなったと検知して再び点灯するといった点滅状態になる場合があります。
この場合、器具の照射を床面や壁面に強く照らさないように器具の設置位置を変更するか床面や壁面が反射しないように措置が必要となります。

■ご使用についてのお知らせ

- LED光源にはバラつきがあるため、同じ形名の商品でも商品ごとに発光色や明るさが異なることがあります。
- 安全上、LED光源を直視することはおやめください。
- 照射距離が近い場合や照射面などによって、光ムラが発生することがあります。
- 照明器具には耐用年限があります。設置して8~10年経つと、外観に異常がなくても内部の劣化が進行しています。点検・交換をおすすめします。
※ 使用条件は定格性能周囲温度30℃、1日10時間点灯、年間3000時間点灯。(JIS C 8105-1解説による)
- 照明器具を使用中、近くでラジオやテレビを使用すると雑音が入ることがあります。雑音が入る場合、照明器具とラジオ・テレビの距離をできるだけ遠ざけるか、それぞれの向きを変えてください。
- 壁紙や天井クロス素材によっては、照明器具の熱で変色・変質することがあります。

■お手入れのしかた いつも明るく安全にお使いいただくために、6カ月ごとに照明器具のお掃除をしてください。



お手入れの際は必ず電源を切ってください。感電の原因となります。

- 点灯中及び消灯後は、器具が高温になっておりますので、手を触れないでください。やけどの原因となります。
- 器具のよごれ(ホコリや虫など)は、乾いたやわらかい布か、ぬるま湯、または薄めた中性洗剤に浸してよく絞ったやわらかい布で拭き取ってください。
- 器具に直接水をかけて洗わないでください。水気の浸入による、器具の破損、感電の原因となります。
- LEDモジュールを取りはずしてお手入れはできません。
- LEDモジュール、素子は交換できませんので分解はしないでください。

お願い

- ガソリン、ベンジン、シンナー、アルコールなどの薬品で拭いたり、殺虫剤をかけたりしないでください。器具が傷む原因となります。
- 器具の樹脂部品には洗剤や薬品等を使用しないでください。部品の劣化の原因となります。

■仕様

製品形名	定格電源電圧[V]	定格周波数[Hz]	光束維持時間[h]※	入力電流[A]	定格消費電力[W]※
LEDG87904YL(N)-LS LEDG8790YL(N)(K)-LS	AC100	50/60	40,000	0.140	8.1

※ 照明器具の耐用年限とは異なります。「LEDモジュールが点灯しなくなるまでの総点灯時間、又は、全光束が、点灯初期に測定した値の70%に下がるまでの総点灯時間のいずれか短い時間」を推定したものです。

※ センサーの待機電力は約0.3Wになります。

■保証とアフターサービスについて

保証とアフターサービス

弊社ホームページに掲載のメーカー保証規程をご確認ください。

修理を依頼されるときは『修理サービス規程』をご確認ください。

メーカー保証規程：https://www.tlt.co.jp/tlt/support/warranty/warranty_policy.htm

修理サービス規程：https://www.tlt.co.jp/tlt/support/repair_service/repair_policy.htm

ご不明な点並びに修理に関するご相談は、お買い上げの販売店(工事店)または弊社ご相談センターにお問い合わせください。その際は商品の形名、お買い上げ時期、故障の状況などをお知らせください。



メーカー保証規程



修理サービス規程

保証について

- メーカー保証期間は、商品お買い上げ日より(引き渡し日)3年間です。但し、リモコンなどの付属品は、製品の保証期間にかかわらず、1年間です。
- 24時間連続使用など、1日20時間以上の長時間使用の場合は、上記の半分の期間とします。

補修用性能部品の保有期間

弊社は、照明器具の補修用性能部品を製造打ち切り後6年保有しています。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

※補修用性能部品には、同等機能を有する代替品を含みます。

※材料の終息等により、保有期間前に修理できない場合があります。

修理・お取り扱い・お手入れについてご不明な点は

お買い上げの販売店へご相談ください。

販売店にご相談ができない場合は、下記の窓口へ

日本国内専用
Use only in Japan

東芝ライテック商品ご相談センター

0120-66-1048 (通話料：無料)

携帯電話 046-862-2772 (通話料：有料)

FAX 0570-000-661 (通信料：有料)

ホームページアドレス <https://www.tlt.co.jp/>

・お客様からご提供いただいた個人情報は、修理やご相談への回答、カタログ発送などの情報提供に利用いたします。

・利用目的の範囲内で、当該製品に関連する東芝グループ会社や協力会社へ、お客様の個人情報を提供することがあります。

東芝ライテック株式会社

〒212-8585 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地34

お読みになった後は、お使いになるかたがいつでも見られるところに必ず保管してください。